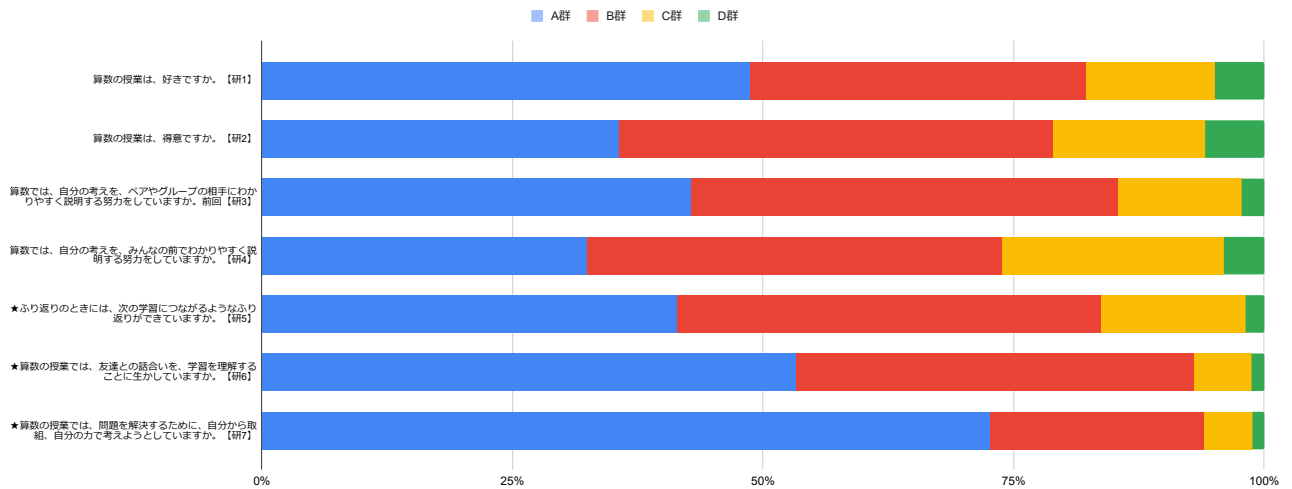


第2回学校評価 児童アンケート集計結果

第2回学校評価児童アンケート集計結果 1 校内研究について

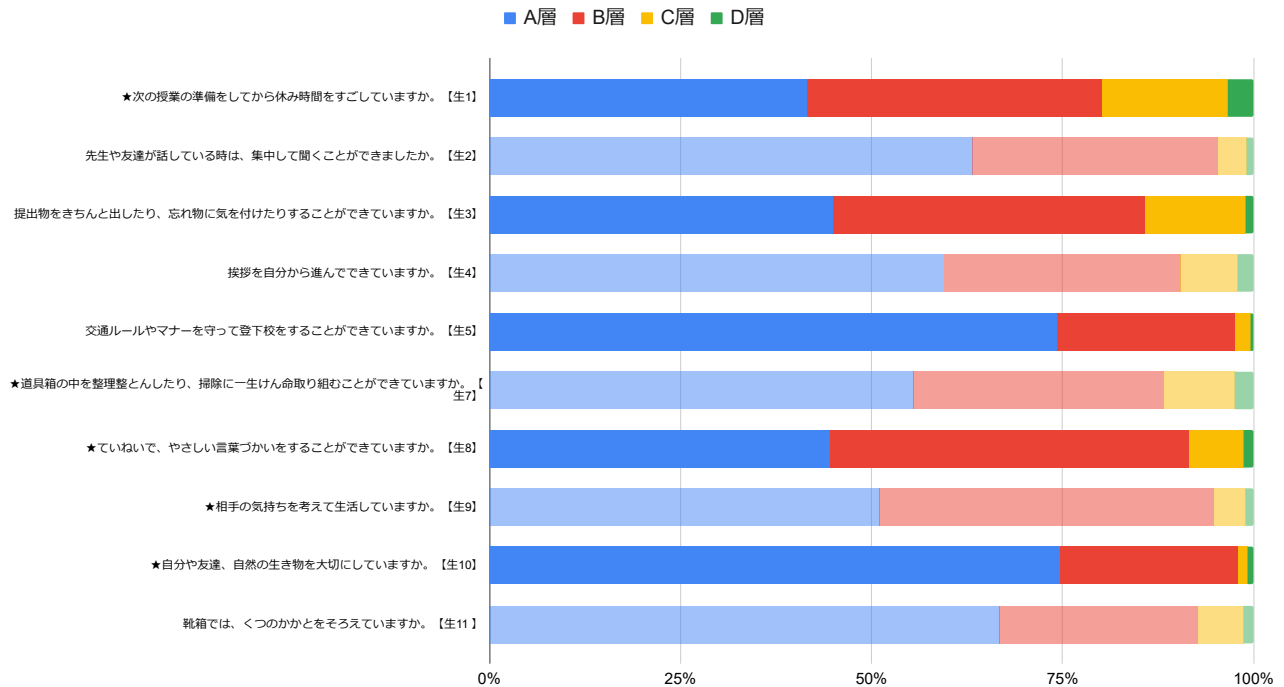


11月に回答した研究に関するデータを分析すると、項目1「算数は好きですか」は、前回に比べて肯定的解答が2.2ポイント低下しています。項目2の「算数は得意ですか」についても、肯定的解答が3.1ポイント低下しています。11月に向けて問題解決的な学習(教師の教え込みではない学習)が増え、得意と感じられない児童が増えた可能性もあるのではないかと考えられます。算数科の学習は、既習事項をもとに新しい課題を解決していくため、既習内容の定着を確かなものにしていく手だても必要となります。朝学習で取り組む算数の課題の内容を計算問題だけでなく文章題の割合を増やすように見直したり、評価テストで間違えたところを消さずに残して再度解き直したりするなどの新たな手だてを検討・実施していきます。

大きく向上した項目3「自分の考えをペアやグループの相手にわかりやすく伝えている」(前回比4.5ポイント上昇)と項目4「自分の考えをみんなの前でわかりやすく説明する努力をしている」(前回比10.3ポイント上昇)は、どちらも自分の考えを他者に伝えることに関する項目です。算数の授業でペアの友達やみんなの前で考えを発表する活動を継続してきた結果が実を結んだと言えます。また、対話交流に関する項目である6「友達との話し合いを学習を理解することに活かしている」も前回比で4ポイント上昇しています。学習内容が複雑化する中でも、友達同士の対話を重視することが学習の理解につながるという自己効力感が育っていることが分かります。本校で続けてきた「活発な対話」への取組は、児童の対話意識を向上させ、困難な問題にも自力で解決していこうとする力の維持(項目7: 前回比0.5ポイント上昇)へとつながっているとと言えます。

一方で、振り返りに関する項目5は、前回比で肯定的解答が85.2%から83.7%と、1.5ポイント減少しています。数値的には僅かですが、内訳ではA群(生かしている、と回答した児童)の割合が54.7%から41.4%に(13.3ポイント)減少していることが分かります。研究推進部でこの理由について検討したところ、振り返りに関する取組自体は各学年で鋭意的に取り組んできたものの、「本時の振り返りの視点の明示化」や「誰の意見に影響を受けたか意見交換する」など、自己肯定感の向上に関する取組を重視したため、次時へのつながりへの意識が薄れてしまったことが考えられます。自己肯定感の高まりを維持していくためにも、振り返りの手だてで自体を大きく変えるのではなく、授業の導入時に前時の児童の振り返りから問題を作るなど、接続を意識できるような授業計画を立てていくことで、項目5の上昇が期待できることと考えられます。

第2回学校評価児童アンケート集計結果 2 生活指導について

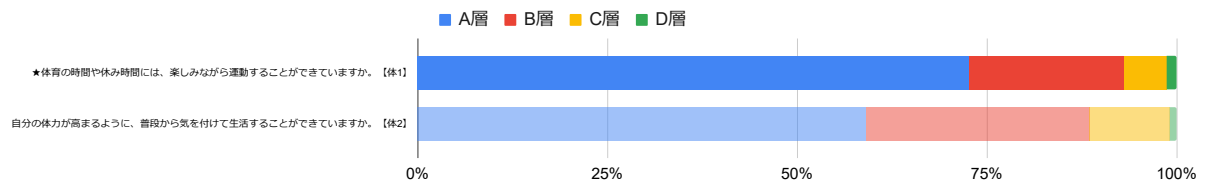


「あいさつを自分からすすんでしているか」(生4)については、A・B層1回目より増えています。C・D層が約10%いるので、C・D層を減らしていくために、月初めに「あいさつ5項目」を確認したり、毎月のあいさつ運動を着実にやり、積み上げていくことが大切だと考えます。

「道具箱の整理整頓、掃除」(生7)については、A層が減少しています。行事などが重なり、慌ただしかったことが理由として考えられます。教職員アンケートでもA層が低いので、整理整頓の時間を習慣化する、整頓係を作る等、持続可能な指導を工夫する必要があります。

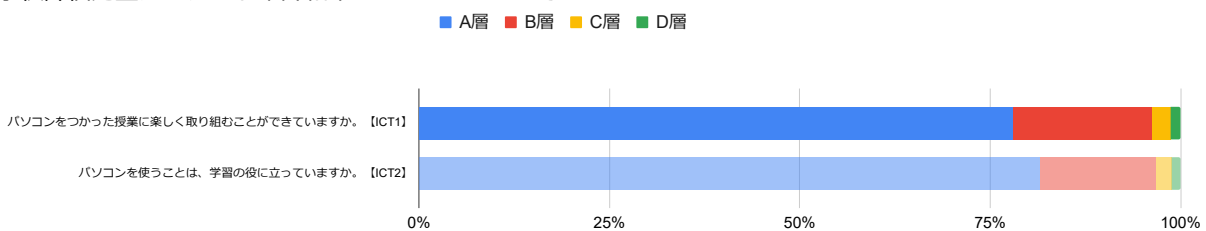
生活9、10の他者に対する意識について、約3%ほどですが、割合が増えています。割合が減少していないということは、ハートフルウィークの学習効果の現れであると考えます。ハートフルウィークだけでなく、生命尊重の指導を、継続的に折に触れて指導していくと、さらに割合が高くなると考えられます。

第2回学校評価児童アンケート集計結果 3 体育について



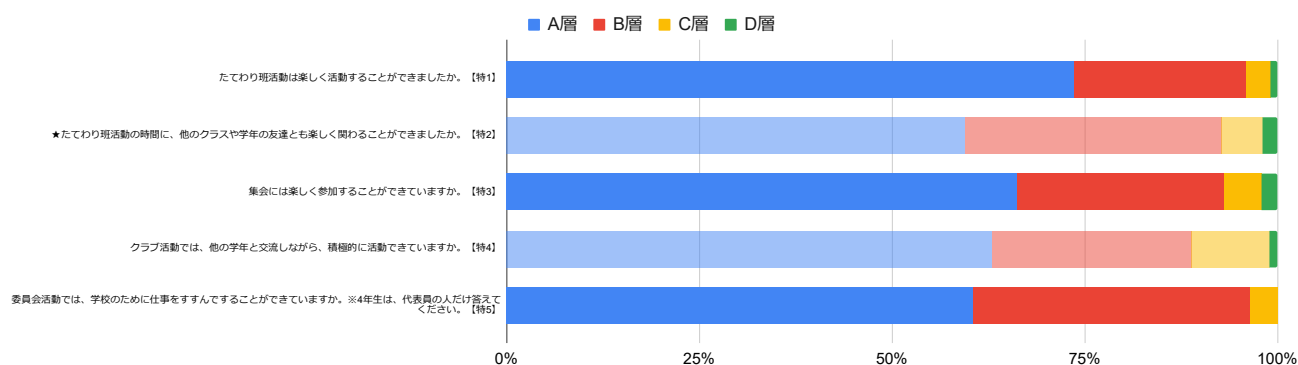
どちらの項目もA層の割合が増えて、D層の割合が減っています。今後も外遊びの推奨をしたり、体育学習の充実をはかったりして運動の楽しさを感じることができるような指導を続けていきます。

第2回学校評価児童アンケート集計結果 4 ICTについて



どちらの項目も肯定的な回答が増えていることが分かります。一方で、C・D層が存在しているので具体的な対策として、タブレット端末の使い方や学習における利活用の仕方を教員自身が学び、児童が扱いやすいアプリを活用することや、教員が資料提示をする際に活用するなど、授業に活かしていくことが考えられます。

第2回学校評価児童アンケート集計結果 5 特別活動について



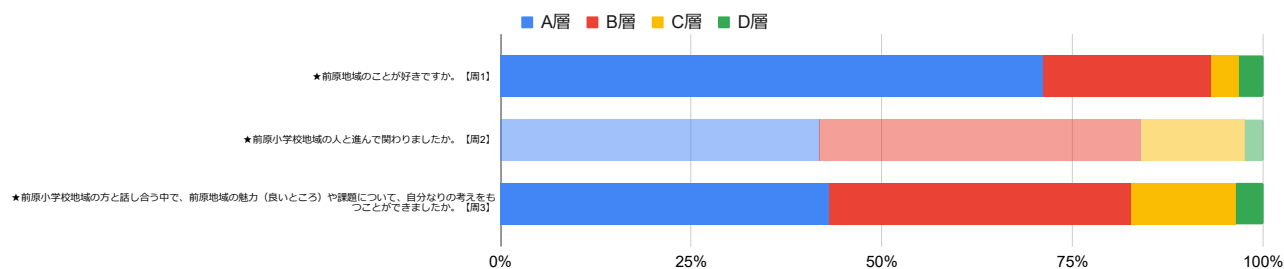
【特1】【特2】のたてわり班活動では、全体の比率は概ね変わりませんが、A層の数が減っています。活動内容のマンネリ化が理由として考えられるため、今まで以上に、充実した活動内容になるよう児童と打ち合わせをし、異学年交流が楽しめるように指導していく必要があります。

【特3】集会ではAB層ともに増え、全体の9割を占めています。このまま続こう支援していきます。

【特4】クラブ活動ではAB層が増えました。C層の10%をAB層に上げるように、ルール説明等の方法を一緒に考えていき、誰でも参加しやすいクラブ活動にしていく必要があります。

【特5】委員会活動ではD層が0になりました。引き続き指導していきます。

第2回学校評価児童アンケート集計結果 6 周年行事について



第1回目よりも項目1の前原地域のことが好きかという質問に対して、肯定的に思っている児童が増えたことが分かります。これは、地域や地域人材を活用した学習を進めているだけでなく、60周年行事の一環として、集会活動や学級活動などで前原小学校や地域を大切にする取組を行っていたりすることが関係していると考えられます。それに対して、地域の人の関わりについての項目では、僅かですが肯定的な意見が減っていることが分かります。これは、1学期よりも地域人材を活用した学習が減ったり、逆に60周年に関する行事が増えたりすることで、地域の方との関わりが物理的に減ったのではないかと考えました。3学期は60周年式典やそれに関連するイベントが増えるため、肯定的な意見が増えることを期待しています。